

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

1 本園の教育目標

◎基本理念 「みんなの笑顔があふれ、毎日が楽しい幼稚園。」

- ◎教育目標
- 健康で生き生きとした子どもを育てる。
 - 集団生活のルールを守り、友達と仲良く遊ぶ子どもを育てる
 - 思いやりのある優しい子どもを育てる。
 - 情操豊かで、自らを表現できる子どもを育てる。
 - 自ら取り組み、最後までがんばれる子どもを育てる。

2 本年度の重点的に取り組む目標

「気持ちの良い挨拶や返事」

挨拶や、返事を進んでできるように、保育の中で教師が意識して子どもたちに伝えていきたい。子どもたちが、「挨拶や返事をすると気持ち良い」「挨拶や返事をすることが嬉しい」と自ら感じられるようになってほしい。

☆にこにこ： 教師と共に、挨拶や返事をする事で、挨拶、返事の仕方を知り、使い方を知る。自分の身の周りの人に親しみをもち挨拶、返事をする

☆年少組： 挨拶チャンピオン、返事チャンピオンの表を掲示し、意識して取り組めるようにする

☆年中組： お返事チャンピオンと、挨拶チャンピオンを毎日決めたり、チャレンジカードの項目に入れたりすることで、子どもたち自身が自ら進んでできるようになる

☆年長組： お返事名人や、挨拶名人を決めることで、積極的に取り組めるようになる。年長児としての自覚をもち、登園時に年中、年少、にこにこの見本となるように挨拶ををする

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価指標及び評価結果						評価／ A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する		コメント
	基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	評価に関する説明、理由	
保育内容と計画	4	園の教育理念・教育方針を理解する	A	4	朝礼の時に大きな声で唱和し、理解に努めた	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●教育理念は、朝礼の時に毎回読み合わせ、共通理解できていると思う ●朝礼で、必ず読み合わせるため、強く意識できていると感じる ●朝礼での読み合わせで、フレンズ幼稚園に勤務する心構えを唱和しているが、子ども達を呼び捨てにしていることがある 	
	3	挨拶や返事を楽しんで行えるよう工夫する	A	3	挨拶や返事を楽しんで行うようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●概ねできていると思うが、個性ある取り組みが見られなかった。提供されたものをするだけでなく、どうすれば楽しく挨拶できるようになるか一人一人がもう少し考えるようにするともっと良いと思った ●子ども達に指導する前に、まずは先生が見本となるよう意識をして挨拶を行ってきた。 ●園全体で取り組んでいる挨拶ビンゴや挨拶・お返事名人の賞状を通して、楽しんで積極的に取り組む姿が見られた。朝の集まり時などに挨拶チャンピオンに前に出てもらい手本として示してもらうことで、他の子も「僕も出来るよ！」などと翌日に頑張っている姿が見られていた ●挨拶ビンゴに取り組み、正しい挨拶の仕方を伝え、楽しんで、色々な先生に挨拶をしていた 	
	2	各学年の目標に向けての取り組みが継続して行う	A	2	子ども達が、挨拶や返事を進んでするようになった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ●挨拶や返事は、挨拶チャンピオンとお返事チャンピオンの表を掲示することで、意欲的に行うことができていたと思う。また、保育室に表を掲示することで、自分自身も毎日取り組むものとして意識をすることができたと思う。 ●挨拶カードなどでたくさん子ども達が挨拶しに来てくれて嬉しかった ●挨拶ビンゴや賞状を準備することで、子ども達が自ら進んで挨拶返事をするようになったと感じた。挨拶ビンゴに取り組む年長組をみて年少・年中組の子ども達が真似ている姿をみる事もあった。服装や挨拶をする時の正しい姿勢などその都度伝えることができ良かったと思う ●挨拶や返事については、クラスに表を掲示しチャンピオンを発表することで、子ども達が意識しできるようになってきたと感じる。 	
	1	英語学習システム「サイバードリーム」や「漢字絵本」「俳句」に毎日取り組んでいるか	A	1	毎日の取り組みの中で、子どもたちが楽しみにするようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●サイバードリームや論語・俳句に関しては、大きな行事の時には滞りがちになってしまうので、時間配分の工夫が必要である ●以前より少しでも時間を見つけて意識して取り組めたように感じる。特にサイバードリームは行事のある中でも行うことが出来る日が多かったように思う ●サイバードリームなどは、なるべく毎日行えるよう行う時間帯を工夫してきた。しかし、発表会前で時間が取れず出来ない日もあった為、毎日行うことが出来なかった ●にこにこクラスでは、サイバードリームの教材が1台しかないため、クラス毎順番に回して取り組んでいる。飽きのこない頻度でちょうどよい感じである 	

子どもとの接し方・保育の在り方	4	子ども達一人一人を認め理解に努めている	A	4	子ども達のエピソードを忘れないように書き留めるようになった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達一人一人に合った援助や声掛けをするように心掛けた。また、どんな活動においても子ども達に伝えたいことを自分の中で明確にした上で保育をするように意識をした ●一人一人に寄り添い認め、子ども達理解に努めているが、保育時間の中でエピソードを書き留めることは難しかった ●子ども達のことを一番に考え保育することを目標としてきた ●自分だけでなく他の先生方の保育を見る場やアドバイスをもらう場があることで自身の保育を振り返りより良い保育ができるように工夫されている
	3	毎日の保育を振り返り、以後の保育に活かすようにする	A	3	週の反省を記録することで、クラスの子どもの様子が把握できた	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ●その日の保育を降園前に子ども達と共に振り返り、良かったところや楽しかったことなどの意見を出し合うことで、子ども達自らが気づき、次の活動や成長につながるよう取り組んでいる ●週の反省を書くことで子ども達への対応やその日の保育について振り返り反省をいかすことが出来ているように感じる ●行事前になると、週の反省をためてしまい提出が遅くなるがあった
	2	創意工夫をもって保育を実践する	B	2	クラスの実態を踏まえ、どのような活動が楽しめるか自ら考えるようになった	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達の遊びが発展するよう、遊びの提案をするよう心掛けてきた ●カリキュラム以外で自由時間があっても、子ども達と遊ぶのではなく、座って遊ばせている先生も多いように感じる ●行事前は、遊びへの工夫が少なくなってしまう同じ遊びをする日が続いてしまうことがあった。今後は余裕を持って季節を感じられる遊びを考えて増やせるよう改善していきたい ●担任の先生がクラスの子どもの関心を示していることを把握し壁面製作を行った。それぞれ各クラスで個性が出てとてもよかったと思う
	1	褒めたり励ましたりしながら、子ども達が自信をもって活動できるような指導を行う	A	1	一人一人の良いところをクラスのみならずで認め合う機会が増えた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●活動の中で、できなかった事が出来るようになった時は、ただ褒めるだけではなく、それまでの頑張ってきた過程も褒めるようにした。また、体育など、体を動かすことに、苦手意識がある子どもたちにも安心して挑戦できるような環境を作れるよう意識してきた ●褒めると子どもたちがすごく楽しそうに沢山の事に取り組んでくれるので、褒めながら取り組めるように工夫した ●クラスで子ども達がお互いを褒め合う時間を作ることで、自信を持ったり褒められる喜びを感じたりできるようにしている。また、友だちの良い所を見つけることもできるようになっている ●行事が多いことから、いくつもの挑戦の中で自分の強みを見つけられる場があり子どもの自信に繋がっていると思う ●子ども一人一人の頑張りをクラスの中で紹介する機会をもっている ●子どもたちの率直な声を聞き逃さないように気を付けて保育してきた
環境構成	4	子ども達の興味関心を育む環境構成を考える	B	4	用意した室内環境で喜んで遊んでいた	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●玩具を購入して頂き、玩具専用の棚を設置したことで、使ったものは元の場所に戻す意識が芽生えたように感じる ●子ども達の興味がある玩具を揃えていただき、毎日様々な玩具で遊ぶことができています ●いつも同じような環境構成ではなく子どもの興味や発想が生まれるような環境を自分自身も心がけていきたいと思う ●行事に追われたことや、自分自身に余裕がなかったこともあり、環境構成まではあまり取り組めなかったと思う
	3	子ども達と一緒に遊具の安全な使い方、けがの予防について考える	A	3	遊具や道具の使い方を守って遊ぶようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●遊びながら見回るなかで正しい使い方遊び方が出来ない子どもには再度声を掛け気付けるようにしている ●約束事を子ども達にしっかり伝えながら遊びを見守り、少しずつ安全に行動範囲を広げられるようにしている ●遊具の安全に関しては、子ども達からも指摘してもらえるような信頼関係が築けている
	2	園庭、遊具等の安全で清潔な環境構成をする	A	2	朝の外掃をしながら園外の危険個所に目を向けるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●外遊びの際に、約束をし遊具の使い方や遊び方について一緒に確認するようにしている。 ●フレンズ号の裏などは死角になることが多く、カメラを設置しても良いのではと感じる。 ●遊具の釘が出ていたり、破損したものがあつたりすると、子ども達が先生に声を掛けてくれるようになった
	1	季節が感じられる等、豊かな感性を育むことができる工夫をする	B	1	子ども達がイメージを広げ自分たちの遊びを発展させようとする姿が多くみられた	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●食事の際にも季節の食材が使われている時には子ども達に興味を持ってもらえるような話をしてきた ●季節に合った掲示物や製作をするよう心掛けてきた ●保育室を季節に応じた装飾にしたり、掲示物でも季節を感じられるように工夫した。また季節の行事の際には子どもたちに必ず話をするように心掛けた ●季節の自然物を取り入れて保育をしたり、目的をもって園外へ出かけたりすることが少ないように感じる
教職員相互の協力連携・役割	4	報告・連絡・相談を適切に行う	A	4	小さなことも上の先生に相談するようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●終礼で伝えたり、クラスでのトラブルや相談は学年の先生や主任の先生に必ず伝えるようにしてきた。相談することで対応の仕方を学ぶことができて良かった ●小さなことでも学年の先生に相談することで自分自身の学びにも繋がった ●クラスでの問題で困ったことや自分だけで判断できない事は、先輩の先生方に相談し、アドバイスを頂いてきた ●欠席連絡、送迎やバス・おひさまの変更連絡等、職員間での報告で間違えることがあったので気をつけたいと思った
	3	守秘義務を守る	B	3	園で知った情報を外部に漏らすことのないよう日頃から気を付けている	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達の家庭環境について、口外した事案があった。その後、改めて全職員に注意喚起が行われた。個人的な注意だけで終わらず注意喚起があったことで身が引き締まった
	2	後輩への指導を適切に行う	A	2	気づいたときにその場で声をかけ知らせるようにした	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●後輩への指導は同じ先生がすることが多いように感じる。学年主任でなくても経験のある先生は、自分の事だけでなくもう少し周りに目を向け、先輩として後輩に助言をしていった方が良いと思う ●学年に新人の先生がいたこともあり、関わる機会も多かった。行事前や製作の際など細かく確認しあうことを心がけた
	1	教職員が共有すべき必要な情報を共通理解する	A	1	終礼、職員会議においてしっかりメモをとるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●週に2回の終礼の際に、クラスで起こったことを報告し合うことで、共通理解ができていると思う ●週2回の終礼を通して、共有すべき必要な子ども達の情報は得られていると思う ●気になる子どもの様子は、職員会議でしっかりと伝え、多くの目で見守ってもらえるように協力して頂いた。また、職員会議での報告があることで他のクラスの子どもの事を理解する事ができ、見回りの際に気を付けて見守ることができた

特に配慮が必要な子ども達への配慮	4	保護者の相談を親身に受ける	A	4	自ら声をかけ、相談しやすい雰囲気づくりに努めた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●お迎えなどで会うことがあると、なるべく最近の様子を伝えるようにしている。できるようになったことや、もう少しでできそうなこと、家庭でもして頂きたいことなど話すようにしてきた ●保護者と話す時には、言葉を選び子どもの園での様子成長をわかりやすく伝えるようにしてきた ●相談があったときには保護者の気持ちも受け止めながら園であった様子を伝えた。
	3	個々の子ども達の情報を職員間で共有するようになっている	B	3	個別の話し合いを職員間で行い担任だけでなくすべての先生で把握するようになった	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●主任の先生に相談し、クラス内だけで抱え込むことなく相談できている。支援につながる方法も学ぶ所ができた ●アレルギーについての事案があり、給食室とも改善点について何度も話し合った。アレルギーの子ども達についても、支援の必要な子ども達と同様、全職員が把握できるよう工夫が必要だった。改善策を職員間で話し合い、現在は職員全員で対策に向き合っている。
	2	段階を踏みながら、必要な情報を保護者に伝えていく	B	2	伝えるところが気になるところばかりにならないよう、良い面を努めてみつけるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●性格なのかどうなのかという難しい子に対しては個人懇談などで保護者の方とも話し合い施設支援に繋げるようにした ●個人懇談を通して、園内での様子、家庭での様子を共有し、気になるお子さんには施設支援や療育センター、事業所などに繋げてきた ●教育相談や就学相談などは、保護者の方と連絡を取り、段階を踏んで行うことが出来ている
	1	医療機関や補助教諭と連携をとり、情報交換を行い支援に役立てる	A	1	支援の必要な子ども達の様子や、支援の方向性を努めて見つけるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●サポートの先生についていただくことにより、配慮が必要な子が活動に参加することが難しい時でも他の子を待たせずにスムーズに行うことが出来た ●支援の必要な子ども達を補助の先生に任せっぱなしになってしまう様子も見受けられる。他の子ども達もいるのでどの程度がクラスの中に入れるようにするのかバランスが難しい ●配慮が必要な子ども達に対しては、毎日補助に入る先生が違うので、その都度お願いしたいことを伝えるようにした。年度始めはその都度伝えることが少し大変だったため、どんな援助をして欲しいかをまとめたものをお渡しすれば、補助の先生方も援助がしやすかったかもしれないと感じた。また、補助の先生に頼りっきりになってしまうことのないように自分でできる所は自分で行うように心掛けた。
保護者への対応・家庭支援	4	子ども達の成長や変化を保護者に伝える	A	4	子ども達が楽しく過ごしている様子を伝え、成長の喜びを共有できるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスだよりやおたよりを配布したり、送迎時や電話にて様子を伝えたりしてきた。小さな出来たことも保護者に伝えるようにした ●連絡カードではなく、アプリ機能を使うことで一瞥で見れるようになり、保護者からの連絡が把握しやすくなった。カードの時には間違えてお友達のものを持ち帰ったりすることがあり、書いている内容を他の保護者に見られてしまう心配があったが、その心配もなくなった ●連絡帳機能に最初は戸惑ったが、電話をかけるほどではないけれど、伝えておきたいと思うような細かなことでも保護者の方へ伝えることができるようになった ●伝え忘れてしまった事も連絡カードではなく、連絡帳の機能になった事で降園後も連絡することが出来ている。大事なことは電話を掛けたり、お迎えの際に伝えるようにしている
	3	保護者との対応は公平を欠かさないように心がける	A	3	どの保護者とも話すことが楽しくなった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「全ての保護者に教師の思いが伝わる」ということはないため、学年の中で意見を出し合い対策を考えてきた。子ども同士の関係や保護者同士の関係を今後の園生活をスムーズに行えるように、ということを考えてながら伝えてきたが、なかなかうまくいかない場合もあった ●どうしても電話連絡が偏ってしまうことがあるが改善は難しい ●保護者と子ども達の話をするときは、一緒に喜びあったり、かわいいエピソードに笑いあったり楽しい時間となっている
	2	保護者からの様々な相談に対して適切に対応する	A	2	伝えたいことが整理できるようになった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ●送迎の際や、個人懇談の際に子ども達の気になることや日々の成長を話すことができています。また、懇談では予めアンケートで質問をまとめていたことで、事前に考える時間がありより親身になって話すことができたと思う ●良いことはしっかりと伝え共有してきた。また園での気になる様子についてもしっかりと伝えるようにし、課題点も共有するようしてきた ●どんな相談でも、悩んでいる保護者には共感したり労らったりした上で、一緒に解決策を考えるように心掛けた
	1	子ども達の気になる様子を保護者に伝え、改善策を園と家庭とで一緒に取り組む	A	1	年齢に応じた相談に対応できるように、研修会に参加したり、本を読んだり、自らも学習の機会をもつようになった	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の生活様式や考え方の変化を敏感に感じ取り、理解するよう努めている。その上で個の子ども達にとって最大限必要な支援を受けられるよう働きかけている ●保護者からの様々な相談に対して、自信をもって答えられるように学びを深めていきたい

4 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
A	自己評価を行い、改善すべき点が見えてきた。今年度は、職員の人事を大幅に入れ替え、他学年で行っている保育の様子や保護者対応について情報交換する場が多くあった。また、2歳児クラスを4年保育とし、入園式のあり方やペアクラスでの活動の見直しもできた。園行事も全て実施できるようになり、行事を通しての子どもたちの成長を保護者と共感できたことはよかった。今後もPDCA（目標・実行・評価・改善）のサイクルに基づき、充実した園生活が送れるよう柔軟に対応していきたいと思う。

5 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成	子ども達の遊びへの環境が、玩具や遊具（園庭の固定遊具を含む）に頼ってしまい、教師が遊びの幅を広げる工夫をしたり、遊びの提供をすることが少なかった。興味や関心に応じて、環境を整え子どもたち自身が遊び込める環境づくりに取り組む必要がある。少子化が進み、子ども達の育ちを支える場としての幼稚園の役割を見直し、「遊びこむ経験」ができる環境づくりを考えていきたい。そのためには、自由に活動を深められる時間や空間、道具などの環境を大切にしていきたい。「自由に好きなことをする」「好きなことや得意なことを生かして遊ぶ」「遊びに自分なりの工夫を加える」「挑戦的な活動に取り組む」「見通しをもって遊びをやり遂げる」など次年度に向けての課題が見えてきた。
保護者への対応	伝えたいことを整理して話すことが難しいと感じている先生がいた。個人懇談の前には、予めアンケートを行い保護者からの質問を尋ねるようになっているため、返答が難しい事項については経験のある先生に指導してもらって答えるようになっている。研修会に参加したり本を読んだりして、スキルアップすることも課題だと感じた

5 学校評価委員会の評価

今年は、幼稚園にとって2歳児クラスの4年育など、新たな挑戦の年でもありました。数年前から教職員の皆様がしっかりと準備を進めてこれこともあり、スムーズな運営と連携が取れていたと感じています。また、昨年の課題となっていたサイバードリームの活用や保育目標への取り組みが大きく改善され、より良い形で運用されていることも素晴らしいと感じました。これは、教職員の皆様が意識して取り組み・日々努力を重ねられた成果だと思います。さらに、多種とに週単位・月単位、手単位でPDCA（計画・実行・評価・改善）を意識し、小情報をしっかりと有されていることも、とても素晴らしいです。こうした継続的な取り組みが、より良い保育環境につながっているのではないのでしょうか。日代の爽化に伴い、幼稚園に求められる別もますます多様化し、その中で対応することは決して簡単なことではありません。そのような中でも今年も子どもたちにたくさんの貴重な体験の機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。そめまして、一年間本当にありがとうございました。

氏名

一年間有難うございました。。先生方も忙しい中、園での行事や保育計画への取り組みなど大変だったと思います。子ども達がのびのびと楽しく園生活を送れるよう、日々関わり方や遊び方を学年ごとに考えて工夫されていると感じました。子どもなので、どうしても100%の安全はないと思いますが、できる限りの安全対策も考え実行されていると思います。色々時代とともに変わっていく事も有ると思いますが、これからも子ども達の成長を大切に考えて頂けるフレンズ幼稚園であって欲しいなと思いました。有り難うございました。

氏名

毎日子どもたちへの愛情をもって接していただき本当にありがとうございました。今年度、初めての役員で私自身貴重な経験をさせていただきました。評価報告書についてもお話しを伺うことができ、園でのPDCA(目標、実行、評価、改善)のサイクルを知ると共に、より一層の感謝の気持ちが深まりました。問題が起こった際も、迅速に対応し改善点を挙げ教職員の皆様全員が真摯に取り組んでおり、今回の経験を来年度からにも活かせるものだと思います。子どもたちのことを常に考え、たくさんの経験をさせていただきありがとうございました。

氏名

- ・フレンズを種園の取り組みがよく理解できた。 ・A評価であるものであっても子どもたちにとってより良くなるように更に改善していこうという先生たちの何上心が伝わった。
- ・先生が子どもをほめるだけでなく、子どもたもお互いにほめ合っていくことはとても良いことだと思う。子どもたちの自己肯定と自信になっていくと思う。
- ・英京学習や論語・などの取り組みは良いと思うか、子どもたもにとって詰め込みにならないように、形式的にこなす様な形にならないようにと思った。
- ・アプリの機能や専家のアドバイスをこれからも利用し先生たもの負担の軽減と子どもたちと保護者のために後立ててもらいたい。 全体として内題はなく、子どもたちへの愛情と保育への熱意が伝わった。

氏名

委員会実施日

令和7年 2月 25日 (火)

